P R A H A　　C Z E C H

第３２回
ヨーロッパ・キリスト者の集い
証と感想

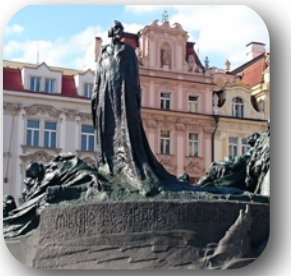
東欧で初めての”集い”に参加して

シスター・ソハラ
独ダルムシュタット・マリア姉妹会

さまざまな苦難を過去に体験してきたチェコ、プラハの地で開催された東ヨーロッパでは初めての集いに参加を可能としてくださった天のお父様に感謝します。

『すべての人々に真実を』というヤン・フスの言葉をテーマとして、真理の御霊なる主がご臨在くださり、最初から最後まで導いてくださったこと、またこのテーマの言葉の前の『お互いに愛し合いなさい』という部分を、プラハの愛する皆様がまず先頭となって実行してくださり、続いて参加したすべての者が、それぞれの場で実行しようとしたことを思い、神様の御名をたたえます。

惑わしに満ちたこの時代に生きる私たち一人一人が、日常生活の場で愛と真実に生きてゆくことによって、自分たちだけでなく周りの多くの人々を惑わしの罠から真理へと導くことができますように、と心から願います。誉れと栄光、賛美が、三位一体の主に捧げられますように！」 心からの感謝をこめ、



ヤン・フスの銅像

出会い

M.F.
バルセロナ日本語で聖書を読む会

今回私は初めてこの大会に参加させて頂きました。規模の大きさ、皆さんの信仰心の強さ、プラハの素晴らしさなど圧倒される日々でした。その中でも私にとって貴重なものとなったのは、ヨーロッパに住む日本人クリスチャンとの出会いです。普段の生活ではなかなか出会うことのない熱心な信仰を持った様々な年齢、様々な仕事、様々な国で暮らす方々でした。バックグラウンドはそれぞれ異なるものの、彼らに共通しているのは、キリストを信じ、それぞれが与えられた賜物を大切にしながらキリストと共に歩んでいるということです。

私はその姿に感銘を受け、また彼らから色々な証しを聞き、神の存在にさらなる確信を持てるようになりました。私自身、今回の集いは行ってみたいと思いつつも行けないだろうと諦めていた所、神のお導きがあり、最終的に行けるようになったというミラクルを経験しました。改めて全てを整えてくださった全能の神に感謝したいと思います。また神に生かされているということが実感できる集いで、言葉では表せないほど素晴らしい体験、出会いができた集いでした。

プラハの夏

稲見節子

クロアチア・家の教会

クリスチャンにとって「十字架」は大きな意味を持っています。そして私たちにはその意味を人々に伝える使命が与えられています。「第32回ヨーロッパキリスト者の集い」でバイオリンを弾かせて頂くことになった時、あらためて「十字架」に向き合うことになりました。

映画のパッションではイエスの苦しみがリアルに表現されています。また殉教したヤン・フスの生き方は私たちクリスチャンに信仰のあり方を問いかけています。

ヤン・フスのように火あぶりになるとしたら、私はとても平安でいられないと思います。恐怖と苦しみが襲ってきます。「死」の恐れで信仰もなくなるかもしれません。恰も真っ暗な闇の中にいるようです。オプショナルツアーの地下道で僅かな「恐怖」の体験をしました。もし一人だったら怖くて泣き叫んでいたと思います。

十字架に架けられたイエスは息をひきとった後、真っ暗な「死」へと落ちてゆきました。そしてそこに留まっていました。そのままでは「魂」は永遠に消えて、滅んでしまいます。それが私たちの現実であることを十字架が教えています。魂の滅びがどんなに恐ろしいことか、それを知ったら「救い」の有難さが分かるのではないかと思います。

ヤン・フス殉教600年の年にプラハを訪れて「十字架」から「救い」へと導かれました。これからもバイオリンでそのメッセージを伝えたいと思います。

主にまた用いていただこう！

S. M.

ヨーロッパに住んでいない、邦人伝道もしていない自分が参加し続けてもいいのか、と毎回思いながらその都度示された時に参加させていただいています。いつものことですが、ボロ雑巾のような気分で到着し、そのような雑巾でも洗って、主にまた用いていただこうと、決意をあらたに去って行く、と言う感じでした。

＜講義＞

講義はそれぞれの先生がそれまでのメッセージにつなげていく感じで一貫性があってわかりやすく、いろいろ示されました。できれば全部もう一度聞きたいです。多分、これはグループにもよるのだと思いますが、分かち合いの場でもっと適用について語りあいたかったなと思います。

あと、講義とはちょっと違うかも知れませんが、他の先生方と話していて海外での邦人伝道の難しさも伝わってきました。教職者、信者、求道者ともに、比較的短期間な付き合いが多い中、信仰の堅い土台を築き、互いを建て上げ、信仰を継承し、伝えていくことを、さらに海外というストレスの多い中でされている先生や信者の方々のことを今後もよく知り、祈っていきたいと思いました。

＜テーマ、賛美＞

ヤン・フスには以前から興味があり、その縁の地で彼の足跡をたどり、賛美歌を歌えたことに心から感謝します。単純そうで奥の深い歌詞と美しいメロディが今後長い間、私の励ましになると思います。

＜交わり＞

各地からの多くの参加者との交わりも会を重ねるごとに意義深いものとなっています。交わる時間と場所はプログラムの都合上、食堂での時間とメイン・ホールでの小グループでの祈りの時間くらいだったと思います。いつも足りない気もするのですが、やはりこのくらいしか取れないのだなとも思います。この集いのため見える所、見えない所で多くの方々の祈りと奉仕があったことに、心から感謝いたします。

＜ 反省点や改良点＞

実際の所、私はこのような会に参加できるだけで嬉しいので何も不十分は感じませんでした。でも、今後の改善のため敢えて思い出して書いてみます。参考になりましたら感謝です。

・分かち合いで他の方々ともう少し突っ込んだ霊的な対話がしたかったです。

・賛美は私個人は非常に恵まれました。が、中高年向けだな、とも思いました。（今回は青年が別に集っていたので問題はないとは思いますが。）

・名札が首にかけるタイプだったら良かったな、と思いました。ピンで止めにくかったり、毎日服を着替えるので忘れたりしました。

・集い申し込みのときに奉仕の欄がありますが、どの奉仕が必要が大きいかがわかれば、と思いました。１－２人しか要らない奉仕や、いくらでも人が必要な奉仕があるのではと感じたからです。（ひょっとしたら、どこかに示されていて私が気づかなかったのかも知れません。）

まだ、いろいろあるかも知れませんが忘れる前にこのくらいにして提出します。この集いをここまで導いてくださり祝福してくださった主に感謝します。

私の知らない世界に触れ

本園万子

スイス日本語福音キリスト教会

集いにご尽力いただきましたプラハ・コビリシ教会と、ご協力くださったすべての皆様に心より感謝し、何よりもこの集いを祝福して下さった主の御名を褒め称えます。

2007（ミラノ）年以来の集いへの参加でしたので、開始までずっとワクワクしながら楽しみにしてきました。ヤン・フス600年記念？とさらりと読み流し、あまり勉強もせずに飛行機に乗り込んだ私。開会礼拝で孫先生から詳しいお話を伺い、その歴史の凄さにどんどん引き込まれていきました。そのお蔭で、プラハ市内見学もオプションツアーもとても興味深いものとなりました。

そして、翌日の川井勝太郎先生のお話の中で、プラハ・コビリシ教会の歴史を知るとともに、ルーマニアでも固い信仰に立った人々の基礎があることなど、私の知らない世界に触れ、今大会のテーマである、「すべての人に真実を」が私に迫ってきました。日本でも殉教者がたくさんおられますが、私は本当に信仰に命をかけることができるのか？「はい」と口で言えたとしても、行うことは至難の業だと思います。しかし、自分の信仰を問いかけ直す機会に恵まれ、身が引き締まる思いがしています。

大会を通して感じたことは、プラハの方々の謙遜さです。とても、大変だったことは、黒田さんのメールのサインに、「大わらわの黒田」と書いてあったことからと、「死んでない？」の返事に、「家に帰ってから」の一言からも伺えました。とにかく、孫先生ご夫妻をはじめとする皆様のご奉仕ぶりには頭が下がりっぱなしでした。実は、黒田さんとは2005年にスイスで洗礼を受けた仲、2016年は私が死ぬ番です。

スイス主催の集いの紹介にナレーター役で出演した私は、ある思いを描きました。集いの参加者の高齢化が進む中、明日を担うＣＳやユースが育ってきています。劇本も異文化体験の若者たちが書き、演出してくれました。これから少しずつ、彼らが集いの奉仕を中心となって担い、新しい風を吹かせてくれるのではないか？と期待しています。

来年の集いが楽しみです。皆さん、どうぞ、“ザーベルシュタイン“へ“ウィリアム・テル“の射撃の腕前を見に来てください。

日本人キリスト者に与えられたミッション

タンゲナ由香里

オランダ南部キリスト教会

このたびは、小さな小さなプラハの教会が、こんなに立派な素晴らしい夏の集いをご準備くださり、心からお礼申し上げます。夏の集いは、私にとって、いつも主の愛の原点に連れ戻ってくれる機会を与えてくださいますが、今回もとてもたくさんの主の愛を皆様を通していただき、本当に嬉しかったです。

松林兄の素晴らしいビデオを見ながら、講演や集会を通してだけでなく、愛の神様が私たちに語り掛けてくださったひと時ひと時を思い出しながら、感謝でいっぱいになりました。私たちは何の資格もない者達ですのに、主がこんなにたくさんの恵みと祝福で満たしてくださるのは本当に感謝なことです。

個人的には、敗戦70周年のこの年に、改めて村岡先生のお話を伺えたのは感謝でした。現在、どう考えてもゆがんだ政治がなされている母国を思うとき、私たち日本人キリスト者は一人ひとり重大なミッションをいただいている気がいたします。

ヨーロッパの中では、英国とオランダは第二次大戦中、直接戦った相手国です。インドネシアを植民地としていたオランダ系住民は、婦人や子供も俘虜収容所に入れられており、そこで餓死すれすれの辛い体験を経てきました。戦後、300,000人あまりのそういう方たちがオランダに引き揚げてきたわけですが、そういう国に住んでいますと、ドイツなど、他の国に住んでいらっしゃる方たちとは違ったストレスがあります。またそれだけに、70年たった今でも、日本の首相など要人の一挙手一投足に常に興味を示しています。

幸い、主にある者たちが許されて、ともに和解を求めて活動できる下地が与えられています。There is no way to Peace but Peace is the way.　私たちの平和の君、イエス様を第一にしてゆくところに主が働いてくださいます。

今回のプラハの孫先生ご家族は、韓国の方たちです。私たちの過去には日本の植民地政策のゆえに、また戦後の日本の対処のまずさゆえに、大きな亀裂があります。そういう背景を思うとき、細かいところにまで行き届いたお世話をくださった今回の修養会は、神様のなさる素晴らしい御業を見せてくださいました。心から主の御名を賛美いたします。

フス殉教600年を憶えて

浜島敏
ロンドンJCF

３３度のプラハから２１度のロンドンに帰って参りました。霊的には、プラハは、さらに猛暑でした。その火を消さないようにいきたいと思います。

昨年は、ティンダル殉教の地、今年はフス殉教の地ということで、聖書信仰に殉じた偉大な先輩たちの地での「集い」は意味深いものでした。遡って、ウィクリフ殉教の地（イングランド・ラタワース）で開くのも良いかも知れません。サヴォナローラ、あるいはペトロとパウロの殉教地など、ヨーロッパは、クリスチャンの殉教地で満ちています。さらには、ヤコブとステファノの殉教地エルサレムでの「集い」も将来は考えられるかも知れません。

ただ、そのためには中核となる「日本語教会」があることが必要です。イスラエルには、ユダヤ人伝道に励んでおられるグループはたくさんありますが、日本語教会はあるのでしょうか。新しいところでは、川井先生のいらっしゃるルーマニアやロシア、また現在迫害の起こっている中国や中東（これは難しいでしょうか）での集いも出来たら、「ヨーロッパ・キリスト者の集い」から「世界キリスト者の集い」となるかもしれません。期待しています。さらには、世界で珍しいほど多くの殉教者を出した「日本」での開催もありうるかもしれません。元来の集いとは性格が変わって来るかも知れませんが。

聖書翻訳の研究に関わっている者としては、フスの活動を詳しく教えていただいたことに感謝しています。彼の評価はいろいろあるでしょうが、人々の分かる言語での聖書、人々の理解できる言葉での解き明かしに命をかけた彼の生涯に感銘を覚えました。

またルターの讃美歌は良く知られていますが、フスの作った讃美歌があるとは知りませんでした。大変良い曲でした。そのベツレヘム教会での礼拝は特に印象に残りました。できれば、盛永先生に祝祷だけでなく、説教もあの説教台からして欲しかったと思っています。広場にある彼の立像も素敵でした。さらにツアーで、ターボルのフス特別展でいろいろ貴重な品々を見る事が出来たのも幸いでした。

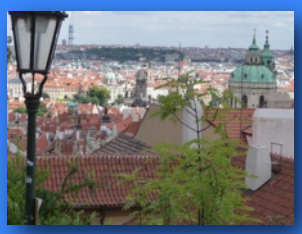
「稲見節子後援会」世話役としての私個人としては、彼女のバイオリン演奏を聞いていただいたた方々に心から感謝申し上げます。また、できましたら、今後それぞれの地域でコンサートを開いていただければなお感謝です。

最後に月並みですが、孫先生をはじめ、プラハの方々に心から感謝をいたします。お疲れが出ませんように。最後に「ポコイ・トビェ」

神様に愛されている喜び

佐藤真美
ミュンヘン日本語キリスト教会

初めて参加しました。ヨーロッパにこんなにたくさんのクリスチャンがいると知ったことは、ヨーロッパで生活する上の大きな励みと喜びとなりました。牧師先生方の講演はいずれも力強く、改めてクリスチャンとして神様に愛されている喜びを噛みしめることが出来ました。



特に、皆さんと「イエスキリスト救いの主」を歌うたびに、今ここに神様が舞い降りてくださっているかのような感覚に何度もなりました。ホテルの対応や、食も立地もよく、大満足の集いとなりました。

聖書第一に生きる大切さ

Schmitt亜弥子
ケルン・ボン日本語キリスト教会

ヤン　フス殉死600周年の2015年にプラハ・コビリシ教会日本語礼拝が　プラハで「集い」を開催して下さったことに感謝します。フスが聖書を母国語に訳し、多くの人が聖書を読むことが出来るようにしたのがルターよりも100年前だったということは私には驚きでした。

すべての人に真実を、がテーマで色々のメッセージを聞き、真に聖書第一に生きる大切さを確認しました。一年に一度のこの集りで久しぶりに会う方々と話すのもうれしいことです。

真実は勝つ

金子進
オスローJCF

愛する兄弟姉妹、先生方、奉仕者の方々、楽しい主にある真実の交わりを心から感謝します。ベテランの参加者や新顔の兄弟姉妹、宣教師、それに欧州に新任された先生方もおられました。経歴の違う老若男女の信仰者が一同に集まり、神を賛美し、礼拝し、交わりの時を持てた幸いなプラハ大会でした。

短い間でしたが、階段で、エレベーターの踊り場で、ロビーで、レストランで、会場で、20数名の方々と心ゆくまでお交わりさせていただきました。旧友の方々とは、あの時の、あの問題の解決や、新しいビジョンに向かって邁進している姿が証され、プラハに来てよかった、と心から神様に感謝しました。ある宣教師の証には胸が詰まり、涙を抑えて食事になりませんでした。また、ある姉妹方の純真な、ありのままの告白も、集いの場が与えている魂の解放感からでしょう。

「すべての人に真実を」と、ヤン・フスの言葉を題にしたプラハ大会でした。冒頭の説教では「真実一路の旅なれど、真実（を貫き通して）思い出す」というヤン・フスの心情を語ってくださいました。この言葉は胸の奥深くまで突き刺さりました。殉教を覚悟しながらも「真実は勝つ」と訴え続けたヤン・フスの信仰に深い、深い感銘をうけました。

金曜の晴れた午後の自由時間に、新旧の友人たちと街中に出ました。賑やかなヴルタヴァ川に架かるカレル橋の銅像群を見ながら、川べりでの休憩は青空とそよ風に吹かれながら、神様の御手の中にある人生を満喫していました。私ごとではキャンセルしたプラハ集会でした。癌治療開始の日程を神様が変更し、出席出来るように計らってくださったと信じています。癌と闘い始める嵐の前の静けさを、プラハで満喫してきました。個人的には豊かな祝福のプラハでした。

主催されたプラハ教会の孫先生一家やスタッフの方々と、会場の最後の後片付けが終った後、ロビーの奥で一緒にくつろぐ時間が与えられました。斎藤先生やイスタンブールJCFの方々も一緒でした。テーブルを囲んで、疲れていたにもかかわらず、最後まで孫先生を支えていた二人のご子息のはつらつとした笑顔が印象的でした。プラハJCFの皆さま、素晴らしい人生の思い出をありがとうございました。参加された皆さま、来年はスイス主催でお会いしたいです。

ユースのプログラムが出来て感謝！

トムセン・チャーリー
スイス日本語福音キリスト教会

今年は二回目の集いで、初めてユースのプログラムに参加させていただきました。去年は中高科のお手伝いをしてて、それもとても楽しかったですが、今回は本大会に出て、いろんな先生方の話を聞くことができて、とても勉強になり面白かったです。後のディスカッションの時間も同じ歳の人と話すことも出来たし、去年会った中高生の友達とも時間を過ごせて、新しい出会いももちろん沢山ありました。ユースのプログラムが出来たことをとても感謝しています。これからどういう風にユースのグループが進化していくのが楽しみです！

来年の集いが待ち遠しい

トムセン・ヨハナ
スイス日本語福音キリスト教会

私は今年初めてのキリスト者の集いに参加しました。色んなクリスチャンに知り合ってとても感謝しています。貴重な出会いがいっぱいありました。特に最後の夜で色んな証を聞けたことが印象的でした。来年の集いが今から待ち遠しいです。

名残惜しかった別れ

頃安 遥（ころやす　はるか）
北ドイツJCF

今回、初めてキリスト者の集いに参加させて頂きました。僕は、クリスチャンにも最近なったばかりで、クリスチャン歴が長い皆さんに混ざって、話にちゃんとついていけるのか少し不安でしたが、皆さん温かい方ばかりで、本当に充実した時間が過ごせました。終わってしまって、皆さんと離れ離れになるのが本当に名残惜しかったです。プラハの街も、本当に素敵な街でした。また来年も、是非参加したいです！

集いに参加して

富永幹恵
パリ・プリテスタント日本語キリスト教会

美しいプラハで行われた３２回集いに、プレ大会から参加できたことを感謝します。

ゆったりとしたプログラムの中で語られる先生方のメッセージは、与えられた地で日ごろ真実に歩んでおられるからこそでてくる味があり、奥の深いものでした。またそれぞれの地で闘っておられる愛兄姉方にもお会いでき励ましをいただきました。この様な集会に参加できていただける豊かな恵みを感謝します。今回のテーマである６００年前に殉教したヤン･フスの信仰に襟が正されるばかりです。たくさんの音楽のプログラムや特別公演も素晴らしいものでした。

会場のホテルも場所も食事も、またダイニングルームの４人がけのテーブルが座りやすく、それとともに大きなテーブルもあり、とても良かったです。

大会のために多くの労をとってくださったプラハ・コビリシ教会の孫先生はじめ会員の皆様、陰になり奉仕してくださった愛兄姉方に感謝します。主よりの豊かな恵みをお祈りします。

欧州ブルーリボンの祈り会

真実を知るとは

富永重厚
パリ・プリテスタント日本語キリスト教会

チェコのヤン・フス殉教６００年を記念してプラハで行われた第32回の集いに家内と参加出来たことを心から感謝しています。

盛永先生、松林兄と

ヤン・フスの言葉である「すべての人に真実を」がテーマに掲げられ、欧州の各教会でご奉仕をされておられる牧師方から聖書の「真実」とはにつき素晴らしいメッセージが語られました。「真理」を知るとはイエス・キリストを受け入れ聞き従うことであることがさまざまな角度から解き明かされました。

ヤン・フスの信仰はウィクリフから受け継がれその後ルター、カルヴァン、モラヴィア兄弟団からウェスレーと継承され私たちにバトンタッチされてきた事実の重さをヤン・フスの生きた地で深く思わされました。特に今回ヤン・フスが１０年以上の長きに亘り説教してきたプラハ旧市街にあるベツレヘム礼拝堂で盛永先生のメッセージが聞けたことは忘れることの出来ないプログラムでした。

会場のホテルも交通の便もよく快適でした。信仰の友と共にする毎日の食事も美味しく新しい出会いも多くありました。プラハの美しい街と共に思い出深い集いとなりました。

少ない人数にもかかわらずこの様に素晴らしい集いを主催教会として実現して下さったプラハ・コビリシ教会日本語礼拝の孫先生初め皆さまに心から感謝申し上げます。すべてをご存じの主が豊かな祝福を持って報いて下さいますように。

福島から欧州の皆様へ

佐藤彰
福島第一聖書バプテスト教会

ヨーロッパ在住日本人キリスト者のみなさま。プラハでは、東日本大震災の目撃談に真剣に耳を傾けていただき、ありがとうございました。大変、ありがたく思いました。大震災から4年半の歳月が流れ、「まだ震災やっているの？」とか「自立したら」等の声がないわけではないからです。

そんな中、遠くヨーロッパに住むみなさまが、大震災に深く関心を寄せてくださることは、「私たちは忘れない」とのあたたかいメッセージとなって、被災者に届くからです。会場でいただいた慰めとエールを被災地に、ヨーロッパからの声として届けます。

もう一つの感謝は、これまでヨーロッパからささげていただいたお祈りと数々のご支援に、直接感謝のご報告をする機会が与えられたことです。

帰り際、「報道で聞けなかった話でした」と声をかけていただき、直接、生の声をお伝えできてよかったと思いました。ヨーロッパ各地の教会の現状も、興味深くお聴きしました。主が、あらゆる困難を恵みにに変えてくださいますように。またどこかで、お会いする機会を楽しみにしています。　感謝とともに。

充実した恵みの時

高野まさえ
新松戸福音自由教会

どんな集いかわからずに参加しましたが、充実した恵みのときとなり感謝で一杯です。各々の先生方が熱をこめて各々の立場から語ってくださいました。十分に受け止められなかったと思いますが、これからの信仰生活に活かして行きたいです。

目一杯のプログラムで夜は集中できませんでした。おたがいの教会の様子を知り合う時があったらと思いました。孫師はじめスタッフのご準備の大変さを様々なところで感じました。ご労を感謝いたします。

一人一人を気遣って

中村光枝
草加福音自由教会

全体的に素晴らしい集いでした。プレ大会にも出席したかった内容でした。構成がとてもよかったです。最後まで一人ひとりに気遣ってくださいました牧師婦人の姿が印象的でした 。

閑恵姉妹　荻野兄共に的確なお働きに感謝でした。ホテルも観光地からほどよく離れていてよかったと思いました。

この集いの持つ意味

並木貴美子
埼玉・草加福音自由教会

主の御名を賛美申し上げます。

今回の大会に参加させて頂き、歴史的背景を踏まえた素晴らしい集いを継続されてきた事、ヨーロッパで生活されている方々には、この集いがどれだけ励ましになっているかを知り、感動致しました。

大会テーマ「すべての人に真実を」を踏まえた先生方のお話に励まされました。ただ私としては、体力的なこともあり、時々睡魔に襲われて誠に残念でした。

今回中心になって働かられた孫先生ご夫妻、事務局長の黒田姉、若い時から楽器に親しみ声楽者として主を賛美された方々、皆様精一杯主を賛美されておられる姿を拝見でき、素晴らしい集いに参加出来たことに感謝で一杯です。いつか主人も参加出来たらと願っております。４年に一度開催されるアジアEFC大会には、毎度参加しております。７月には、マレーシアの友人一家（３人）を京都・奈良を案内し、東京に戻り、当家で一週間程ホームスティして帰りました。２年前初めて日本に来た男の子（友人の長男）が、刺身を食べて帰りました。その子が、今は日本食が大好きになり、寿司を食べる時の嬉しそうな表情が印象に残りました。日本食の力を実感しております。
いつかまたお会いしましょう。

40年ぶりのプラハ

フリードリッヒ・希與子

北ドイツJCF

２年ぶりに『ヨーロッパキリスト者の集い』に参加しました。孫の世話に明け暮れる中、無事に旅仕度も整い、出発できたことをうれしく思います。今年の集いのために、主が選ばれた主人公，ヤン・フスの名前は、高校時代に西洋史の教科書で初めて目にし、ボヘミアという地理的名称と共にずっと記憶の中にありました。

今回の『集い』で、クリスチャンとして、彼に出会い、詳しく彼の生きざまに触れることができ、神様が、私を、この地点、この時間まで、導いてくださったことを、心より感謝いたします。

先生方より沢山の、貴重なメッセージをいただきました。年齢的なものもあり、咀嚼に時間がかかっています。配信してくださったメールで再度ゆっくり味わおうと思っています。真理は、神様のところにしかない、真実を求めて生きていきたいという思いを強くしました。

プラハは、４０年前に初めて訪れた街です。唯一赤い横断幕が、街の色だった４０年前のプラハと、賑やかな国際観光都市プラハとを重ねるのに苦労しましたが、プラハを再度、歩くことができとてもよかったです。４０年前に伝記を手に歩いたフランツ・カフカの足跡をまた、たどることもできました。

今回の『集い』で、もうひとつとてもうれしかったのは、同行の主人（ドイツ人）が賛美隊に入って賛美させていただいたことです。歌詞をローマ字化する暇もほとんどないほど、準備不足でしたが、それにもかかわらず、毎回、一緒に賛美していました。いつ、もういやだ、というか、はらはらしていました。

わたしが、賛美隊に彼を放り込んだというのが、舞台裏の真相です。幾年か前の『集い』では、大会に出ず、独りで、動物園などに行っていました。全礼拝に出、皆と一緒に賛美している彼の姿を見て、私の祈りが実現していることを思い、主にこころより感謝しました。強く勧めてくださったＡ兄弟、また、楽譜をコピーしてくださったM姉、チーム責任者の方々に心よりお礼申し上げます。

今年の『集い』のためにお働きくださった、コビリシ教会日本語礼拝の方々、そのほか、いろいろな奉仕をされた方々、ありがとうございました。主の祝福がありますように。

皆の暖かさと思いやり

ゴスリング・とみよ

ケンブリッジJCF

一番楽しかったのはチェスキークルムロフへの旅でした。いや一楽しかったです。盛永先生が「こんなにリラックスした旅は初めてでした。」とおっしゃっていましたが、私も同感です。「何が楽しかったの」と聞かれたら、冗談を言って一緒に笑い、一緒に食事をし、一緒に行動した事でした。その全てが楽しかったのです。その中で感じたのは皆の暖かさであり、思いやりでした。主が私たちの只中にいてくださり、私たち一人一人導いてくださったように思いました。イエス様が罪人の私たちをこよなく愛してくださったように、それぞれ違う国に住んでいる一団でしたが、私たちの中にイエス様のくださる愛があったのではないでしょうか。

一番心に残った事はベツレヘム礼拝堂に入った事でした。礼拝堂に入って驚いたのは聖マリア像もきらびやかな彫刻も何もありませんでした。ただヤン・フスが人々に説教をしている壁画と彼が作った「イエスキリスト救いの主」の曲が正面に壁画として刻んであっただけでした。火刑に処せられたヤン・フスに相応しい礼拝堂でした。「聖書の中の真実を知りなさい。イエス様の救いに預かりなさい。そうしたら此の世の誘惑から自由になり、永遠の命をいただけます。」と今でも私たちに語りかけているようでした。

チェスキークルムロフに行く途中ターボルでフス派博物館に行く機会が与えられました。一つ一つの展示物の説明をじっくり読む時間がありませんでしたが、ヤン・フスがお金と権力で堕落した教会を激しく攻撃した文に目が留まりました。

「うわー大変だ。フスは勇気があるな。これだったら教会も怒るだろうなあ。でも私はどうだろうか。此の世にどっぷりはまっている私の生活にフスは語っているように思いました。」ヤン・フスが最後まで語ってくださった「聖書のみ言葉に立ち返れ」は今でも生きている真実である事を示された旅でした。主のみ名を心から賛美いたします。

ヤン・フスの信仰の足跡を訪ねて

中山勝也
ウィーン日本語キリスト教会

この集いに参加する前までは、私はヤン・フスについて詳しく知りませんでした。しかし本大会およびオプショナルツアーを通じてヤン・フスの信仰の足跡を訪ねることにより、聖書の真理に立ち返って自分の生活をもう一度見つめ直す機会が与えられました。

彼が当時ラテン語で語られていた御言葉を、現地の人が理解できるようにチェコ語で教えていたことを知り、聖書の御言葉を聞くこと又語ることの大切さをあらためて覚えることができました。

ヨーロッパ在住の他教会の方達と交流することができましたことも大きな恵みでした。主に感謝いたします。

真理と真実とぬくもりと

福岡弘子
パリ・プロテスタント日本語キリスト教会

今年も夏の集いに参加が許され、感謝です。集いの参加が御心でなければ、この道を閉ざしてください。己の思いでなく、みこころに従って歩めますように。出発直前迄のこの祈りは、何年目になるでしょうか？会場迄の切符、日程前後のホテルの手配などをしてくださった方、ロワシー空港ではホテルバスを調べ乗せて下さった方。翌日はドーゲン先生ご夫妻と共にプラハ空港でコビリシ教会の青年達の日本語の出迎えを受けた時の安堵感。地下鉄、バスの切符購入を手伝って頂いて、無事に辿り着いた会場で”やあ、お元気？今年もお逢い出来て！”この1年の空白が消えた再会。

楽しい食事時の交わり

プログラムに沿って慌ただしい様な日程の中で多くの人とお喋りを楽しみ、共に祈り、考え、ツアーを含めた6日間は、瞬く間に過ぎました。ブレ大会の、悩める牧師達のスキットとパネルディスカッションは、どこの教会にもありそうな内容で、悩める信徒達の問題でもありました。本大会での先生方のメッセージも一貫性があり、感銘を受けました。”人の好奇心の活用”の言葉に目を開かれた思いが致しました。いろんな所で、いろんな方から「どうして？何故？おいくつ？」など尋ねられるのが嫌で、逃げたり、はぐらかしたりしておりました。でも、好奇心を持たれるのは、伝道の第一歩、困ったら立ち止まり、視点を変えて神に向かって進むという新しい方針を示して頂きました。

ツアー最後の日の朝は、各人のメールアドレス交換、市内観光に出かける人等新しい出発です。パリ経由でアンジエに帰る私を中央駅に行かれる方と3人でバスターミナルの確認、ホテルのチェックインなど知らない土地で言葉の不自由な私を助けて頂いて全ての不安も消えました。

古代ローマ帝国時代、無敵と言われたローマ軍を全滅させた森の民の住んでいた、「黒い森、シュバルツバルド」を通ってみたかった私はプラハからワインの研修に来ていた青年がアンジエ駅前からバスで帰った話を聞き、帰りはその経路を選んだのです。パリでの5時間の自由時間に広島原爆70周年記念追悼式セレモニーに参加し、現代の日本の現状に直面しました。創造主である唯一の神を愛し、隣人を愛せよとのイエスの教えの深さの再確認の時ともなりました。プラハ出発の日には、思いがけなくターミナルまで水とお土産を持って来て下さった方に、幼い日に戻った様な、迷い子がお母さんに出会った様に涙ぐんでしまいました。

世界遺産　チェスキー・クルムロフ

大会主題聖句：わたしの言葉にとどまるならば、あなたたちは本当にわたしの弟子である。あなたたちは真理を知り、真理はあなたたちを自由にする。
ヨハネ8:31-32

真理を知り、自由にされた者には、他者に対するあたたかさがあり、そのぬくもりの中で過ごした今年の集いでした。自由であるから、心にゆとりがあり、ゆとりがあるから他者に優しくできる。風が吹くから桶屋が儲かる式の発想かと苦笑いしながら、現代の日本が、唯一の神の元にかえる日の1日も早いことを、祈る今年の集いでもありました。

心に響いた賛美

佐々木千恵子
シュトゥットガルト日本語キリスト教会

プラハでの＊キリスト者の集い＊今回もたくさん主の恵みをいただきました。プラハ・コビリシ教会日本語礼拝の孫先生はじめ、沢山の方々の貴重なご奉仕があってこそ、このように素晴らしい時間となったのだと、心より感謝いたします。その感動のなかで、一つだけあげると、宣教師でもあるカン・サムエルさんの歌がとても心に響き、CDを毎日のように聞いています。

主イエスキリストを賛美いたします！心より感謝して。

俺たちに「明日はない」

森功
ブリーネ祈りの家

集いでは、プラハの皆様に大変お世話になりまして有り難うございました。良き時を過ごすことができ、感謝しております。欲を言えば賛美の時に、もっと知ってる讃美歌をたくさん賛美したかったです。

部屋も満足でしたし、食事は味が合いおいしかったです。佐藤彰先生の講演にあった「明日があるというのは、そもそもの間違いである、明日はどうなるか判らない。」という言葉が心に残りました。

イエス様の心が私の心となる

テーリカンガス・里佳
OVMフィンランド

夏のキリスト者の集いに6年ぶりに、しかも家族全員で参加する恵みが与えられた事に感謝です。大会ではほとんど奉仕の時間割で動いていたので、久しぶりの皆さんともあまりお話している時間もなくて、「なんのためにここまで来て、一日中パソコンに向き合っているのだろう」と思っていましたが、この奉仕も帰宅後に読んだ「民数記」4章から自分の得意なこと、賜物だと思っている事だからするのではなく主が私を選び奉仕する場所、事柄を与えてくれた事を知りました。そしてこのような心であったにも関わらず、主の恵みが帰宅後の私に働きました。

集い中で神様から語られた事に忠実に生きたい、神様が悲しんでいるのなら自分ができる事は最優先すると言う事を示されて、その言葉に従いました。結果として自分を取り巻いている状況は変わりませんが、この事柄を通して神様がもっと私を神様の深みへ導いて下さっていることを知りました。

イエス様の心が私の心となる、それこそ奇蹟が起きている事を思います。今までイエス様は私の主、師、兄、友と段階を経てきましたが、今イエス様は私の「花婿」となられました。祈りの中で初めて心から「私の花婿よ、来てください！」と叫びました。

私は主が言われる真実の中に生きることを選択し、その事を主は喜んでおられる事、そしてこれからもっともっと深い神様の深みと知恵の中へいざなわれていることを感じています。

今まで閉じられていたものが開かれ始めたのを感じます。イエス様と御父の関係のように、イエス様と私の関係も揺るぎないものにされました。

本当に自分は聖書のパウロが言うのと同じで「この世の取るに足りない者」です。「主の憐れみ」というのを罪からの赦しと知っていましたが、このような者のためにイエス様が十字架で罪を贖ってくれたこと、どんな業績があり親切な人でもイエス様を信じなければ天国にいけないのに、この「取るに足りない者」がイエス様の御側に行けるとは本当になんて言う恵みと憐れみだろうと驚き、まだイエス様を知らない人々に申し訳ない気持ちになります。

集いで賛美されたZinzendorfの賛美歌「Christi Blut und Gerechtigkeit」が私のテーマソングとなりました。

キリストの血潮と義こそ、
私の宝であり誉ある衣。
天に迎え入れられるかの日、
私はそれらを身にまとい、
神の御前に立たせていただくのだ。

あなたのもとへ行くとき、
私は善良な者としてでも
敬虔な者としてでもなく、
ただ、主の尊いいのちの
代価をもって贖われた罪人
として行かせていただきたいのです。

カレル橋の上で会った人

金子進
オスローJCF

8月最初の週末はチェコのプラハに4日ほど滞在しました。毎年、この時期に開かれるヨーロッパ・キリスト者の集いに参加していました。

快晴の午後、旧市 街の観光名所を友人の方々と巡り歩いて写真に収めました。プラハは宗教改革の先駆者として知られるヤン・フスの名残りが多くあります。彼は火刑に至るまで「すべての人に真実を」と、世俗化したローマ・カトリックと相対し、神の真実と、あるべき教会の真の姿を説き、それを貫き通したチェコの宗教指導者です。

旧市街のカレル橋には聖人像が多く立ち並んでいます。その一つに日本人には馴染み深い像があります。ザビエルと彼を支える人々の像です。私がプラハに行くことを知った友人が「見て来たら」と言って写真を添付してくださいました。

その写真に手を加えて見やすくしたのが添付の2枚です。土台に一人の東洋人が彫られていました。いろいろな噂が飛び交う中、1771年に彫刻家ブロコフは、見たこともない日本人を思索し彫った作であろうと思われます。中国人とも言われていますが、ザビエルと中国人との接点が薄いことや、彼自身、中国では宣教活動していないことを考えると、日本人ということになる。

そして、その人こそ日本人最初のクリスチャン、ヤジロウだと思われるのです。アフリカ宣教の後、インドのゴアに拠点を移したザビエルはマラッカやモルッカ諸島で宣教し、1547年に鹿児島出身のヤジロウに出会った。

後にヤジロウはゴアの聖パウロ学院でキリスト教を学んだ。彼の洗礼名もパウロだった。1549年8月15日にザビエルとヤジロウは鹿児島に上陸した。日本で最初にキリスト教を布教したのはこの二人だった。「真の神」を最初に日本に伝えた二人だからこそ、カレル橋にその姿が残されている意味を理解したいです。

彫刻家ブロコフが作業を開始した頃の日本は鎖国時代でした。日本人を見たこともないブロコフですが、ザビエルを支えた日本人に敬意を表して、カレル橋にその姿を残したことに意義を見出すのです。ヤジロウは何処で、どんな苦労をしたか分かりません。でも、カレル橋の上で彼に会ったような気がして「ヤジロウさん、ご苦労様でした」と頭を垂れても不思議ではないでしょう。

家族で参加できる恵み

安藤廣之 、里佳子
ミュンヘン日本語キリスト教会

家族で集いに参加させて頂ける恵みをかみしめました。子供達はこの集いによって、15年間育てられ、多くの方々に見守って頂きました。そして今年はもう　一人、教会のＹちゃんが私達家族の一員として、勇気を持って一緒に参加することができました（そもそも教会そのものが神の家族ですが）。

上の娘は賛美チーム、下の娘は新しくユースグループの立ち上げに関われたのも恵みです。来年のスイスの集いのプレゼンを拝見して、若い方々のパワーはすごい！と感動しました。

私達ミュンヘン日本語キリスト教会も2017年には主催します。本当に小さな群れですが、大きなヨーロッパの日本語の家族の一員として、皆様に助けられながら準備をしていきたいと思います。（安藤里佳子）

今回の集いはヤン・フス殉教600年という記念大会でした。「全ての人に真実を」というテーマでしたが、そこからメッセージを作ると考えた時には何か掴み所のないテーマだと思ったものです。

ただし聖書には真実や真理という言葉が非常に多く出ていることにも気づかされました。私達にとって神と人との関係の基盤がここにあると思えます。フスがチェコ語で説教したベツレヘム教会で集会が持てたことは感謝でした。そして特に今回の大会で印象に残ったのが佐藤先生と村岡先生の特別講演です。日本の大きな課題を示された思いです。（安藤廣之）

第３２回　プラハ"集い"レポート

松林幸二郎
スイス日本語福音キリスト教会

今年で３２回を数えるヨーロッパ・キリスト者の集いは、その"集い"の歴史で初めて東ヨーロッパの地、美しい古都、チェコの首都プラハで７月２９日から８月２日まで開催されました。「互いに愛しなさい。すべての人に真実を望みなさい」チェコの宗教改革者ヤン・フスの遺言から"すべての人に真実を"をテーマとしたプラハ大会には、欧州13ヶ国に加え、日本、韓国、トルコ、イスラエル、米国、ブラジルなど計20カ国から２２５名の参加者がありました。

今年２０１５年は、チェコの信仰の父、ヤン・フスが殉教してからちょうど６００周年となる記念の年です。マルチン・ルターがヴィッテンベルグの城教会の扉に「９５カ条の論題」を張り出したのが１５１７年ですから、その１００年前にボヘミアの地で、英国のウィクリフに深い影響を受けたヤン・フスは純粋な信仰に命をかけた、実に宗教改革の先駆者と言えます。

今回の集いでは、そのフスのことば"すべての人に真実を"から真実と真理をテーマに、多くの内容の濃いメッセージを、ヨーロッパで宣教に励む教職者から聞く幸いに恵まれました。開会礼拝では主催教会のプラハ・コビリシ教会日本語礼拝の孫信一牧師から、聖書の真実への限りない追求と、神の真実に生きたフスの生涯を多く学びました。

７月３１日は、参加者全員が地下鉄で旧市街に建つベツレヘム礼拝堂に移動して、メッセージ（盛永進牧師）の説教を聴き賛美をともに捧げました。この礼拝堂は、当時カレル大学の学長であった ヤン・フスが、神とボヘミアの民を愛し、市井の人々が理解できるチェコ語で説教し賛美した記念すべき場所でした。礼拝堂の壁には、ヤン・フスが自国語で作詞作曲した"イエスキリスト救いの主"の譜面が、フスがコンスタンツ教会公会議で、自説を曲げなかったため火刑に処される壁画とともに描かれ、深く印象に残りました。ルター同様、音楽にも秀でたヤン・フスの賛美歌は、孫牧師によって和訳され、礼拝

堂のみならず、プラハ大会中、テーマ曲としてしばしば賛美チームによって歌われ、シンプルで美しいメロディーと深い内容の詩はいまも胸の中で響いています。

その後、礼拝堂に近くヤン・フスの銅像がたつ旧市街広場で自由解散となりました。人で埋まった旧市街広場の銅像の側では倦怠的なジャズの生演奏が流れ、世界でもっとも世俗化がすすむと言われるチェコの一面を見る思いでした。１４世紀に神聖ローマ帝国の首都として栄えたプラハは　、多くの尖塔をもつ世界でもっとも美しい都として世界にその名を馳せているだけあって誠に魅惑的で、毎年開催地を替えて開催されるキリスト者の集いの恵みでもあると思いました。

月が変わって８月１日の午後は自由時間でしたが、折から欧州で宣教中の福島第一聖書バプテスト教会・佐藤彰牧師によって”震災で何を見たか”、ならびに在オランダの村岡崇光ライデン大学名誉教授による”荒野の７０年”　の講演が持たれ、実体験を元にした深い講演内容に会場は大きな感動に包まれていました。

年に一回、ヨーロッパの枠を超えて世界から、イエス様を唯一の救い主と仰ぐ兄弟姉妹が集まり、聖書を学び、信仰を育み、神の家族として違いを超えて交わりをもつ”ヨーロッパ・キリスト者の集い”を、主は今回も満ち足りてなお余るほど祝福してくださいました。また、少人数でありながら、見事な企画運営をなさって下さった主催教会のプラハ・コビリシ教会の背後には主の導きと助けの御手がありました。

どうか、今回の集いの企画運営に携わり尊い汗を流してくださったプラハの兄弟姉妹に、主からの豊かな祝福と報いがありますようにお祈りしています。そして、今回の集いも主に栄光を帰すものであったことを、共に喜べる幸いに感謝します。

このヨーロッパ・キリスト者の集いの記録（映像、メッセージ、資料等）は、オフィシャル・ホームページの www.europetsudoi.net/第３２回-プラハ大会特設サイト/でご覧いただけます。来年の集いは、２０１６年７月２７日から３１日まで、スイス日本語福音キリスト教会主催で、南ドイツ・シュヴァルツヴァルド（最寄りの空港はシュトゥットガルト）にあるザーベルシュタインで開かれます。その案内もホームページでご覧いただけます。

あなたはどう生きますか？

山田真理子
プラハ・コビリシ教会日本語礼拝

今回の集いでは、ヤン・フスの存在が強く心に残りました。チェコ在住中は、ヤン・フスがどういう人なのか、まったく意識せずに暮らしていました。（旧市街広場の銅像、火あぶりになった人程度の知識しかなく・・・）フスの時代、祈りや賛美は限られた人しかできなかったことも初めて知りました。ベツレヘム礼拝堂に身を置いたり、またフスの賛美歌等に触れたことで、その時代に思いをはせる少しの足掛かりになりました。

どんな思いだっただろう。「正しい」ことを言うことがどれだけ大変なことだったか。私たちが聖書に触れたり、自由に祈ったり、賛美したりすることは、当たり前のことではない、改めてそう思い、日本語（母国語）でメッセージを聞け、賛美できることの幸いと重みを思いました。

真実であろうとする姿こそ、真理につながる、その重いメッセージは、「あなたはどう生きますか？」改めて自分自身にその問いを問いかけられたような気がしました。

チェコを通して働かれる神の摂理

黒田閑恵
プラハ・コビリシ教会日本語礼拝

　　プラハの集いに参加された全ての皆様、そしてご奉仕くださった先生方、たくさんの兄弟姉妹に心から感謝致します。
「チェコを通して働かれる神の摂理・・・」と、しおりの冒頭に孫牧師が書かれています。小さな国、チェコの歴史をふりかえると、今こうして公にキリスト者の集会を持てたことは、大きな喜びです。４０年間の共産党支配のもとで、宗教は弾圧され教会は荒れました。私の住む村の教会も、日曜もクリスマスも、誕生も弔いも、鐘のなることは無く何十年もの時が経ちました。
　旅行で訪れていた頃、いくつもの村を通り、なかにはすさまじく破壊された教会に息をのむ思いのこともありました。西方ボヘミアは戦後追い出されたドイツ人の村が多かったせいかも知れません。そして４０年という、奇妙に暗示するかのような年数が過ぎ、教会の扉は再び公に開かれました。
　コビリシ教会日本語礼拝が集いの主催者に決まったと聞いた時、この少ない人数でやれるのだろうかと、ヤン・フス師昇天６００年は脇に行ってしまい、まだ見えない漠然とした山のような仕事への予感と不安でいっぱいでした。他に人がいないので事務局長という立派な肩書きを私がもち、荻野兄が実行委員長でしたが、任半ばに会社からの命令で４月には帰国されてしまいました。（でも集いの数日に駆けつけてくださったのです）
　それでも、あわてずさわがず淡々としておられる孫牧師につられて、私も、神様がきっと助けてくださると、不思議に落ち着いておりました。
　その後のおおわらわは早回しにします。経験した兄弟姉妹はおわかりですが、何でも前もってはできないのでした。最後の１～２ヶ月は、次々と大波小波の問題が押し寄せるのです。たくさんの仕事ができたのではなく、単にのろいので、何時間もコンピュータの前に座り、老眼が進みました。３２回めはプラハと決まったときから、縁の下の力持ちになりたいと心に決めましたが、実際は、縁の下の力無し、でありました。その分、知らないところで神様が、兄弟姉妹が働いてくださったのです。
　それらを今思い返して、ぜひお伝えしたいことがあります。チェコに住む小さな者からの伝言です。
ヨーロッパの、少人数や弱いと実感してられる集まりに必ず神の御手が働いてくださいます。そして、主催者側になることで、舞台裏の仕事は大変ですが、その苦労を補って余りある豊なものが与えられると信じております。小さな群れと自覚されている教会に、プラハから未来へのバトンタッチを！
試練と思っていたことが、実は豊かな恵みでした。アーメン。　　全てを感謝して

プラハ・コビリシ教会の実行委員会のみなさん

ベツレヘム礼拝堂での集合写真　２０１５年７月３１日